

PRESS RELEASE

令和 8 年 10 月 2 日

岡 山 大 学
東 北 大 学
島 根 大 学

大規模データを用いて統合失調症患者さんの肺がん治療の受療率を明らかに —特に、抗がん剤治療を受ける人が少ないことを確認

◆発表のポイント

- ・統合失調症患者さんでは精神疾患がない方と比べて、肺がんの発見・診断が遅れており、さらに、一般的ながん治療を受ける方が少ないことが明らかとなりました。
- ・具体的には、手術治療のほか、手術後の抗がん剤治療などそれぞれのステージに応じて推奨される標準的治療を受ける割合が低いことが示されました。
- ・全ての人のがん治療の発展に取り残されることがないように、がん治療を適切に受けられているかを経時的に把握し、治療を受けるための支援を多職種が連携して行っていく必要があります。

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科精神神経病態学の山田裕士客員研究員と同学術研究院医療開発領域精神科神経科の藤原雅樹講師、国立がん研究センターの石井太祐研究員と藤森麻衣子室長、東北大学の中谷直樹教授、島根大学の稲垣正俊教授らの共同研究グループは、わが国の統合失調症患者さんが、精神疾患のない方と比べて、肺がんに対する手術や抗がん剤による標準的治療を受ける方がより少ないことを明らかにしました。また、統合失調症患者さんでは、肺がんがより進行したステージで診断されていることも示されました。肺がん治療がより発展した近年において、精神疾患を有する方における標準的治療の受療に関して調査した報告は世界でも初となります。

これらは、肺がんの発見の遅れに加えて、診断後に病期に応じて推奨される治療を受ける上でも障壁や困難が生じていることを示唆する結果です。診断が遅れると負担の大きい治療や、複雑な治療とならざるを得ないため、治療を受けることに困難が生じている可能性があります。そのため、治療負担の少ない早期段階でがんを発見する取り組みが重要です。同時に、統合失調症を有する方でもがんの診断後に適切ながん治療を受けられるよう、がん医療と精神医療を含む多職種・多領域の医療者が連携した医療提供体制の必要性が明らかになりました。

本研究結果は、10月8日、国際医学誌「*CHEST*」のオンライン版に掲載されます。

PRESS RELEASE

今年 1 月に大腸がん治療の実態を報告し、このたび第二弾として、肺がん治療の実態を報告しました。特に肺がんでは、治療の受療状況に関する報告が古い年次の研究に限られていましたが、今回の研究では近年においても標準的治療を受ける方が少ないことが分かり、対策が急がれます。全ての方が適切ながん治療にたどり着けるよう、今後も研究と日々の診療に尽力したいと思います。



右：山田客員研究員

左：藤原講師

■発表内容

<現状>

統合失調症患者さんでは精神疾患がない方と比べて肺がんによる死亡率が約 2 倍であることが示されています。その要因として、肺がん診断の遅れや標準的治療を十分に受けられていないことが考えられています。しかしながら、肺がんの主な根治的治療法である手術を、統合失調症患者さんがどの程度受けられているかについては、世界的にも報告が少ない上に結果が異なっています。

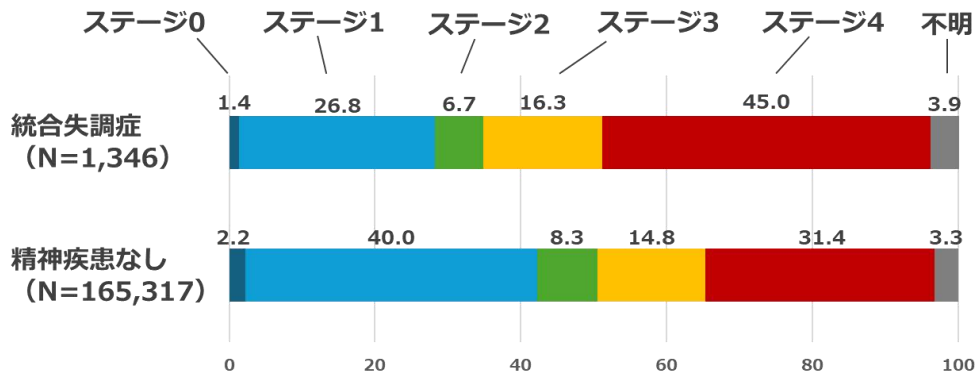
また、がんのステージによっては手術を行った後に抗がん剤治療を行うことが標準的とされており、手術ができないステージでも、抗がん剤と放射線治療を同時に行うことが推奨されている場合があります。統合失調症患者さんがこれらの標準的治療をどの程度受けられているのかについては、約 20 年前の受療状況について調べた米国の研究が 1 つあるのみでした。過去 20 年で、がんの治療は大きく進歩しており、統合失調症患者さんにおける近年の標準的治療の受療状況について新たな調査が必要です。

<研究成果の内容>

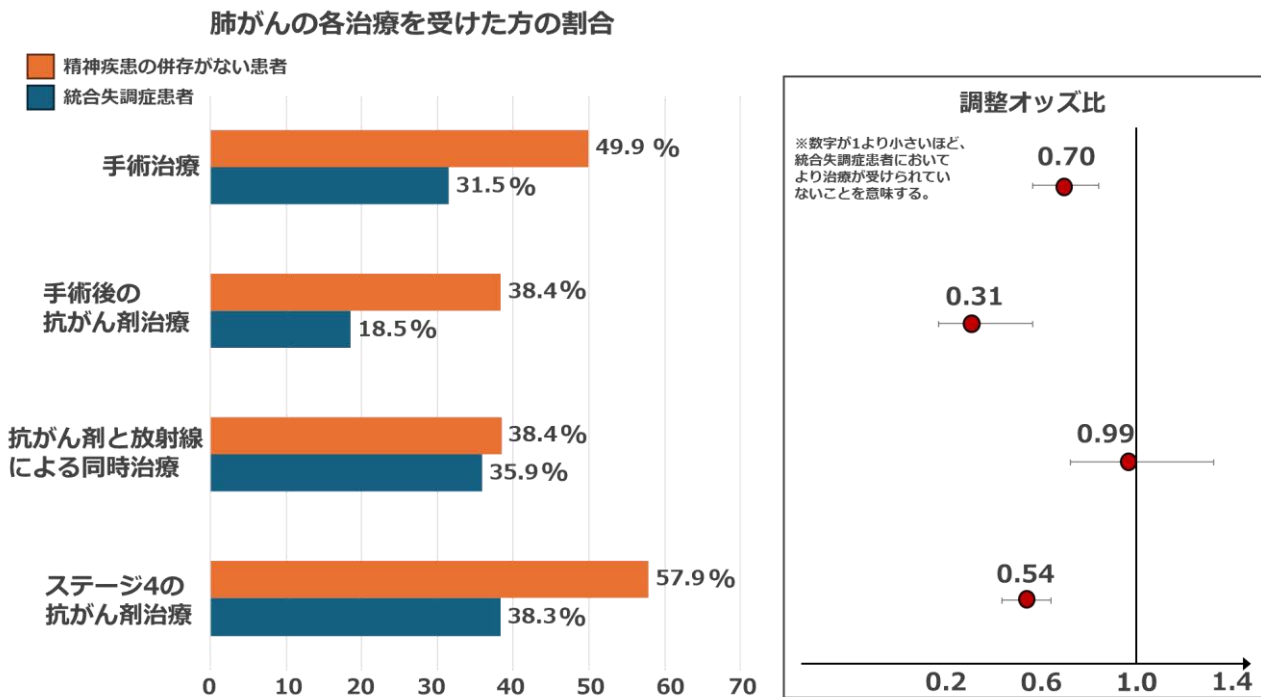
今回の研究では、国立がん研究センターが、日本全国のがん診療連携拠点病院等^{※1)} からがん診療に関するデータを収集し、構築している大規模なデータベースを用いて解析を行いました。研究計画の立案・解析には、大規模公的データを用いたコホート研究の分析手法に精通する東北大学および島根大学の研究者が参画しました。2018 年から 2021 年の間に 706 の医療施設で肺がんの診断・治療を受けた、166,663 人の患者さん（うち、統合失調症患者さんは 1,346 人）を対象に調査を行いました。結果、統合失調症患者さんでは、精神疾患がない方と比べて手術をより受けられていないことが示されました（調整オッズ比 0.70; 95%信頼区間 0.57-0.85）。ステージ 3 における抗がん剤と放射線による同時治療については、受療に差がないことが分かりましたが（調整オッズ比 0.99; 95%信頼区間 0.73-1.34）、手術後の抗がん剤治療およびステージ 4 における抗がん剤治療については、統合失調症患者さんではそれぞれの治療を受けた方がより少ないことが分かりました（それぞれ調整オッズ比 0.31; 95%信頼区間 0.17-0.57、調整オッズ比 0.54; 95%信頼区間 0.45-0.65）。また、統合失調症患者さんでは、肺がんがより進行したステージで診断される傾向も確認されました（早期ステージでの診断割合：精神疾患併存なし 42.2%、統合失調症患者 28.2%）。これらの結果から、統合失調症患者さんでは、肺がんの診断から治療に至るまで、複数の段階で医療提供体制に課題が生じている可能性があります。

PRESS RELEASE

【がん診断時のステージ】



【肺がんの各治療を受けた方の割合と、受療の調整オッズ比】



<社会的な意義>

国民皆保険制度^{※2)}により治療を受ける機会が保証されている日本においても、精神疾患の有無により近年の肺がん治療の提供割合に差が示されたことは、対策を考える上で世界的にも重要な知見です。

わが国における第4期がん対策推進基本計画では、「誰一人取り残さないがん対策を推進し、全ての国民とがんの克服を目指す」が全体目標として掲げられています。本調査によって、配慮の必要な方が適切ながん治療を受けられているかを経時的に把握し、差が生じている背景について検討して対策を進めていく必要性が示されたと考えます。

近年、がん診療連携拠点病院等において、がん医療と精神医療を含む多職種・多領域の連携が進んでいます。さらに、本研究と並行して、精神障害を有する患者さんのがん治療における課題を把握する調査を行い、新たな支援方法の開発を進めています。本研究の知見は、こうした支援方法の開発と普及を後押しすることが期待されます。



PRESS RELEASE

■論文情報

論文名 : Impact of pre-existing schizophrenia spectrum disorder on the receipt of surgery and other treatments for non-small cell lung cancer: A multicenter nationwide cohort study in Japan

掲載誌 : *CHEST*

著者 : 山田裕士、藤原雅樹、石井太祐、渡邊ともね、藤森麻衣子、中谷直樹、河村敏彦、大舩孝治、市原英基、島津太一、樋之津史郎、内富庸介、稲垣正俊

DOI : 10.1016/j.chest.2026.05.016

URL : <https://doi.org/10.1016/j.chest.2026.05.016>

■研究資金

本研究は、科学研究費助成事業（若手研究）（課題番号 JP21K17249、がん治療格差のある障害を抱える人に、標準治療を届ける介入の実装を目指した基盤研究、研究代表：藤原雅樹）、科学研究費助成事業（基盤研究C）（課題番号 JP23K09549、医療アクセスに障害を抱える人の、がん医療格差をモニタリングするための基盤研究、研究代表：稲垣正俊）および厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）（課題番号 JP23EA1031、精神障害のある方に対するがん検診及びがん診療のアクセシビリティの向上に資する研究、研究代表：稲垣正俊）の支援を受けて実施しました。

■補足・用語説明

※1）がん診療連携拠点病院：国が指定する「質の高いがん医療を提供する中核的な医療機関」です。専門的ながん治療（手術、抗がん剤治療、放射線治療）を適切に実施する体制を備えるほか、緩和ケアや相談支援、地域の医療機関との連携、院内がん登録の実施など、多面的な役割を担っています。

※2）国民皆保険制度：国民全員が何らかの公的医療保険に加入することを前提とした仕組みで、所得や働き方に関わらず医療へのアクセスを保障する制度です。全国どこでも一定の自己負担で医療を受けることができ、高額療養費制度によって過度な医療費負担も避けられます。病気の早期発見・早期治療の機会を社会全体で確保する、日本の医療制度の根幹となっています。

PRESS RELEASE

<お問い合わせ>

岡山大学学術研究院医療開発領域（岡山大学病院精神科神経科）

講師 藤原雅樹

（電話番号）086-235-7242（FAX）086-235-7246

（メール）mfujiwara@okayama-u.ac.jp

東北大学東北メディカル・メガバンク機構

広報戦略室

室長（教授） 長神風二（ながみ ふうじ）

（電話番号）022-717-7908

（メール）tommo-pr@grp.tohoku.ac.jp

島根大学医学部総務課企画調査係（広報担当）

（電話番号）0853-20-2531（FAX）0853-20-2025

（メール）mga-koho@office.shimane-u.ac.jp



岡山大学は持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています。

